

政治家になろう (2)

豊島区 塩浜 修

ー7月号(1)からの続きですー

5. 昆虫を飼おう

政治家志望者にこんなことを言うのは、私ぐらいだろう。

政治は、現実である。汚いものを目にし、耳にし、手にする。

このおかしな政治を何とかしようとして政治家になり、いつのまにか理想が無くなって、今までの政治家と同じになってしまった者が多い。気をつけないと、どんどんこちらがおかしくなる。

そこで、昆虫を飼うなり、花を育てるなりをすすめる。

昆虫も花も弱い。こちらが、優しい心を失うとすぐ死んでしまう。

「現実」まみれになって優しい心を失ったりしないような心のトレーニングをしておいてほしい。

6. ロリコンになろう

ロリコンとロリコン犯罪は全くことなる。小さい子供をあたたかい目で見守る心を持つことはよいことである。

目先の利益に飛びつくことが、長期的な利益をもたらすとは限らない。むしろ矛盾することも多い。

私は、公害などは、現状より厳しく取り締まるべきだと考えている。そうすると、こういう者がいる。「あまり厳しくすると、公害対策にコストがかかって国際競争力が無くなり、経済的にダメになる」

そんな時、かわいい子供達の笑顔を思い出してほしいのだ。今の大人が贅沢するために、子供達に苦勞をかけてよいか。

どうも政治家志望者に会って話すと、経済のことばかり気にして、環境や人権の勉強が足りない。子供をもっと愛してほしい。子供の幸せを考えれば、もう少し答えも変わってくるだろう。

7. 法律や経済の専門書を

体系的な勉強をしていないと、考えが場当たりのになる。少し苦勞するが、しっかりとした専門書で体系的な勉強をしておいてほしい。少なくとも(1)憲法(2)行政法(3)地方自治法(4)マクロ経済学(5)国際経済学の基本をマスターしてほしい。勉強方法についてはいくらでもアドバイスする。質問にも答える。

わかりやすい本というのは、勢いをつけるにはよいが、うそが多くて困る。ビジネスマンが電車の中で読むような本で、わかった気になってもらっては

困る。

6に書いたことで、私が経済を軽視していると思ったら大違いである。90%以上の政治家には、経済の知識で勝つ自信がある。

特に、私は「黒字が得で赤字は損」と考えているらしい人々が多いのには参っている。また「二国間(特に日本とアメリカ)で貿易収支が均衡すべきだ」と考えている人が多いらしいことにも参る。念のため書いておけば、多国間ならばともかく、二国間では貿易不均衡が普通である。たとえば、日本はサウジアラビアに対して大きな貿易赤字を有しているが、誰もこれをアンフェアだなどと思わないし、まして「サウジアラビアは、もっと日本製品を買え」などとバカなことは言わない。

私は、大学入学前の人々については、知識の丸暗記ばかり考えようとしていないー「学ばざれば即ち暗し」点が問題だと思っている。これに対し、大学入学後は、「思えば学ばざれば即ち危うし」という点が気になる。基礎知識が足りないまま、好き勝手なことを言う人が多すぎる。

8. 違う立場の人の意見を知ろう

大前研一の本を読んで、「農産物の輸入を自由化せよ」と言っている人の何人が、井上ひさしの「コメの話」を読んだであろうか。逆もまた然り。

「原子力発電に反対している人なんか、物理のイロハも知らず、電力需要量のことろくに知らず、ただ感情的に危ないと言っていてけしからん」そんな意見を聞くが、本当に反対派の意見を聞いたのか? 「女性議員は、やたら男女平等のことばかりわめきたてて、少しは外交や経済の勉強でもしたらどうだ」。

そんなことを言った人に私はきいてみた。

「あなたは、女性議員の話を読んだり、書いたものを読んだりしたのか」。

「いや、それはやっていないが、テレビ等で見る限り、連中はそんなことばかり言っているような印象を受ける」。

それはマスコミの取り上げ方に問題があるのではないか。

私は数多くの議員と話しをしているが、平均すると男性政治家の方が知識量が少ない。

原発・消費税・農産物自由化・死刑・脳死…主要な争点については、両方の立場の本を読もう。その上で、自分の頭で考え、自分の意見を決めてほしい。

(完)